

問に答ふ

■一 『みづゑ』六十二中繪甲州の初夏の石版に淡い線を認む、あれは輪廓をとつた鉛筆の痕なりや■二 全圖の黒き色は普通の墨なりや、また斯の如き黒は最後に用ふるものや■三 鉛筆畫一色畫等夜分研究してよきや(富岡洗帆)◎一 然り■二 然り、最初に畫く方が順序、但唐墨にては彩色の際墨が散るおそれあり■三 可なり■一 色彩透視畫法の良書ありや■二 『みつゑ』挿繪の寫眞版を模寫するの利害■三 コマ繪及漫畫の區別■四 何年位ひ習ひたら普通見苦しからぬ繪を畫くことが出来るにや■五 今年も長野市に水彩畫の講習ありや(貴程生)◎一 色彩の遠近は形態の透視畫法のやうに規則立ちて説明することが出来ぬ、それが爲めか別に書物として發行されたものをきかない■二 模寫はあまり利益なし、その間に實物の寫生をした方がよい■三 本誌六十一號に答へあり■四 其人の才分と勉強次第、又都會に居ると地方に居るとでは違ふ、

教師に就くのと獨習と違ふ、普通教師に見て貰つて、眞面目な寫生の百枚もすると一寸見られるものも出来やう■五 未定■廣島に夏期講習ありときく事實にや、是非開かれたし、京都にも同様の企ありとの事眞偽を知りたし(南海道畫狂生)◎關西にて開會するかも知れず未確定■『光風』は毎年何月頃發行さるゝにや(愛讀者)◎期日定まらず■石膏模型の汚れた時はどうしたらよろしいか(高松茂)◎石鹼水をつけたブラシで洗つたら汚れは取れるが元の如く純白にはならない■一 『みつゑ』中に一色畫の寫眞版ありや■二 一色畫の臨本ありや■三 一色畫には何をモデルとして研究せば可なるや(但靜物畫を一通り習へるもの)■四 獨習に適する鉛筆臨本、また鉛筆の臨本寫生の利益如何■五 一色畫で白布を畫いて見たら固くなつて布らしく見えぬ其描法を知りたし(獨練生)◎一 近頃の『みつゑ』の挿繪には一色畫なし■二 和製にては無きやうなり舶來には數種あり丸善書店に問合はされたし■三 靜物が出来るなら、靜物的

風景即ち大きな葉の草とか樹の根石燈籠といふやうなものを試みたまへ、但第五の問で察すると君はまだ靜物が一通り畫けぬらしいから充分やり給へ■四 鉛筆臨本としては外國ものは大日本繪畫講習會(麻布飯倉四丁目)にて取次しものあり、同會に問合はされよ、ホースター若くはカッサンの筆最も適當、次に臨本寫生とはおかし、模寫の事ならんも、正確なる臨本なら模寫してもよからん、利益としては物質を現はす線の使ひ方など覺える■五 技倆が足らぬ故なり、初めより調子をよく見て町重に色を重ねてゆけば固くはならぬ、形が間違ふと其物のやうに見えぬ、別に特殊の描法は無し■一 眼の高さを以て極めたる地平線と、地と空の界の地平線とは圖取りの上に相違ありや、其何れに従ふべきものにや■二 ワットマンにドーサを引けば光澤あるやうに見えて良しと思へど如何、よろしければ其方法を問ふ(石川退次郎)◎一 眼の高さ即ち地平線なり、平地にして廣き處なら空と地との堺が目の高さなり、山あり

樹木あり又は家ありて眼界を遮る時は地平線といふことが出来ぬ**二** その様な例を知らず、繪は光澤あるのがよいのではない、むしろ光澤のない方が上品としてある、光澤と潤ひのあるといふこととは異ふ■**一** 色の濁るのは未熟のためには**二** 繪を頭で書くとはい何なる意味にや(和多田生)◎**一** 然り、多くは下の色の乾かぬうち上から他の色を塗り筆先にて混ぜ返すためか、又はパレットの上であり澤山の色を混合するためなり、又下等の繪具は濁り勝なり**二** 筆先ばかりの技巧を重しとせず考へて書くといふほどの事なり■**一** 水彩畫にて描ける人物の好手本ありや**二** 人物を稽古するによき參考書を知りたし**三** 畫を描くに非常に腦を働かす者にや、腦病者にして畫を學ぶも差支なきや**四** 靜物寫生の話は完結せしにや**五** 大阪の研究所は松原天彩畫塾のほか無きや**六** 繪葉書競技會を開かる、計畫なきや(大阪緑水生)◎**一** 舶來品には數種あり、丸善又は大日本繪畫講習會に問合はされたし**二** これも繪畫

講習會に舶來の書あり**三** 理想的繪畫又は模様圖按等は別として、普通風景寫生等をやるのなら腦の爲め大なる利益あらん、但炎天の寫生などはいけまい**四** 未完。鉛筆、チヨーク、木炭だけ濟みたり、此次は一色畫に移り、色鉛筆、淡彩、グワッシ、水彩、パステルといふ順序に秋ごろより引續き掲出すべし、それが濟むだら戶外寫生の話をなす筈**五** 知らず**六** 希望者多ければ秋頃から始めてもよし■**一** 遠山の禿げは其色を残すべきや、ホワイトをまぜて後に塗つてもよきや**二** 中景の藪は如何に書くべきや**三** 近山は粗略に書くものにや又は綿密に書くものにや**四** 丸山先生の水彩畫講義録は今もなほ發行されて居るにや(廣島神田)◎**一** 遠山の色の中にホワイトを含む時は後に描いてもよけれど、然らざる時は残して置た方がよい**二** 調子を誤まらぬやう見えた通りに書くといふのほか別に特殊の描法なし、如斯質問に對し到底満足の答を致し難ければ、他人の作を澤山見て自ら悟り、且實地に就いて研究を重ねる

のが一番よからん**三** その繪の調子による、全體が綿密ならやはり綿密に寫さればならぬ、他と比例して飛放れてはいけぬ、近山が主點となる場合もあり背景となる場合もある、これも實地に就きよく他の調子に合ふやうに書くのである**四** 書肆の都合にて中絶■**一** スケッチ箱の大きさはドノ位ひが便利なりや**二** スケッチとスタデーの確かな分界を知りたし**三** 本誌六十號と六十二號の口繪色彩と描畫の順序を知りたし**四** 寫生の時空色を畫面全體に塗つて置ては如何、例外はあらんが空色は何處でも反映する故(廣島Y N K生)◎**一** 九ツ切若くは八ツ切が便利**二** 確かな分界もなくまた分界を立てる必要もなし**三** 原色版は原畫と多少の相異を生ずべく、其色彩はいくら説明しても繪具の色の相異あればあまり益を認めず、又かゝる場合を寫生するとして、其順序も空を先にする時あり、後にする時あり(雲などの都合で)、一定したものではなく、あまり參考にはなるまいと思ふが、六十二號『森の下道』で少しく云ふ

て見れば、輪廓をとつて後、オレンヂヴ
アーミリオンの淡いもので全體にワッシ
を試み、次に幹の色を塗り、オーレオリ
ンを以て幹を除いた部分を一面に塗り、コ
パルト、オルトラマリン、インヂゴ等
によつて成れる綠色にて杉の葉を畫き、
前景の草は透明色の黄を重にして描き、
花は後にホワイトを混じて置きたるもの
なり。四 多くの場合不可なり曇りし日な
どはよけれど、晴れて濃き空色など、地
の方へ塗ると日向の感じを失ふ場合あら
ん、空の色よりも其時の光線の色空氣の
感じを全畫面に塗る方がよし。ローズマ
ダーレモンエローコパルトの三原色にて
畫かんとする時は、少しにても青味を帶
びたるものはコパルトを用ふるといふ風
になすべきものにや(福岡R.T生)◎意味
不明なれど、假に三色の繪具で寫生する
時には、其三色を巧みに混合して實物の
色を出したらよい、又パレットの上で混
合せずに、點若くは線で畫くのもよい、
その方が却て感じがよく出るかも知れな
い。原田直二郎先生記念帖購求したし發

行所代價を問ふ(駒田彦太郎)◎該帖は會
員の方に頒ちしものにて僅かに百五十部
の印刷に止まり、一々番號を附してある
といふ珍本なれば手に入ること難からん

讀者の領分

■本欄を見る毎に半を下ると古物屋の廣
告を讀むやうである、諸君チト有益な投
書をしては如何(福岡白羊)■十五日野
に白馬會展覽會を見る、六百五十七點の
うち水彩畫は五十餘點、太平洋と比すれ
ば顔色なしだ。湯淺氏滯歐中の水彩は群
を抜いてゐる、アルカサル宮殿フェルタ
デル門など實に日向の感じが出て居る、
氣持のいゝ繪だ。南薰造氏のテースム河
の夕景も面白い。中澤氏のスケッチはよ
く感じが出てゐる、オルトラマリンを其
儘つけた處などは面白い。太田福藏氏の
花の下は、落花が雪でも降つてる様で地
面も櫻花もさつぱり春らしい感がない。
川名博氏の教會は眞面目であるが吾々素
人には面白くない。萬代氏の雨の晴れ間
はよい。其他は小品物で特に言ふ程のこ

ともない(北島宇明)■廣島地方に夏期講
習會を開かれたし(中國坊)■九州福岡邊
の有志にして夏期講習會を開く事に賛成
者なきや、まだ吾が九州には一回もかゝ
る企なし、聲を大にして幹部を動かし
ては如何(福岡R.R生)■大坂附近にて講
習會を開かれたし(浪華浪客)■前號の
『みづゑ』は繪畫よりも本文の方がよい
『さつきの旅』は面白かつた。柳や草山や
杉の木など異つた地の風光を思ふ儘に畫
いてゆける旅はどんなに面白いだらう。
繪のうちでは河合先生の寫眞版が佳い
(清平)■『みづゑ』六十二は各號に比して
大分不味かつたと思ふた(Y.N.K生)■
この間隣り字の社の木蔭で寫生をしてゐ
たら、何時の間にか集まつたか小供等がワ
イ／＼／＼、僕の様子をちつと見てはヤ
イ／＼／＼、氣狂ひぢやアないか、又ワイ
／＼／＼、仕舞には石の雨が頭上に降つ
て來さうな氣配だつたが、それでも不相
變知らん顔をしてゐたら、いつの間にか
子供達は僕の後を廻つて、時々キレーだ
なア／＼と言つたが、あながち僕の繪を